

小林正人『「景気循環」研究序説—資本主義経済において景気循環は必然的か—』

序説・第一章

用語

・有効需要政策 p 2

国民経済の有効需要を財政政策や金融政策を用いて調整し、持続的かつ安定的な経済成長を実現しようとする経済政策。財政政策は景気の状態に応じて財政収支を調整し、乗数効果を通じて有効需要の調整をはかり、金融政策は公定歩合、公開市場操作、預金準備率などの調整を通じて貨幣の需給調整をして間接的に消費および投資需要を調整する。

・ニューエコノミー論 p 2

経済構造の変化により景気循環から抜け出し、インフレを伴わない好景気が続くという経済理論。低インフレ下の好況が続く現在のアメリカ経済を背景として出てきた説である。

・慈善事業 p 4

社会的連帯感や倫理的義務感に基づいて、罹災者・病人・貧民などのために行われる社会事業。

・不渡り手形 p 5

支払いを受けるために提示された手形で、支払い場所に指定された銀行に支払いを拒絶されたもの。振出人の当座預金残高を上回る金額の手形が振出された場合などに起きる。

・シルバーストン曲線 p 8

イギリスの学者マクシーとシルバーストンによって 1959 年に指摘された、自動車の生産規模とコストとの相関関係を示す曲線。1950 年代後半のヨーロッパの技術を前提として、同一車種の生産の場合、生産 30 万台までは急速にコストの低下がみられるが、40 万台をこすとコストはほとんど下がらなくなるとして、自動車工業の最適年産規模を示したもの。